

科目名	企画制作演習 I						年度	2026	
英語科目名	Practice of Plan and Production I						学期	通年	
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必/選	選	時間数	105	単位数	7	種別※	講義+演習
担当教員	原扶貴子・岩崎正寛	教員の実務経験		有	実務経験の職種		俳優		
【科目の目的】 個人ワークから始まりグループワークへ移行していく。演劇のメソッドとして、インプロビゼーションを取り入れつつ企画・構成を考えながら進める。自己の表現と他者の表現の違いを意識しながらよりよい表現方法を模索し、セルフプロデュース能力を育成。個人での企画制作とグループ単位での企画制作の相違点を理解し、一つのコンテンツを仕上げ、自己表現のあり方を習得することを旨とする。									
【科目の概要】 観客や視聴者を意識した芸術作品を企画し制作することを学びます。									
【到達目標】 自己表現の手法が多様化する現在の芸能界において、これから迎える新技術に対応していくべく、時代と共にある手法を体験しながら自分にとってどういった方法で自己表現が有効かを考え、実践できる能力を養い、セルフプロデュースを検討する。そして、それを形にするための手順や手法、技術を体得することを目標とする。									
【授業の注意点】 コミュニケーションを重視し、役割分担等、得意分野に限らず、主体的意思の元に行動し学ぶ姿勢を持つ学生を高く評価する。自らが考え、答えを導き出すことに重きを置き、積極的に参加することを求める。理由のない欠席は認めない。恒常的に出席することが基本原則である。課題として課する物の提出は必ずすること。授業時数の4分の3以上出席をしない者は定期試験を受験することはできない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	腹式呼吸が完璧にできており、長い台詞・短い台詞を正しい発声法とブレスポイントを駆使することができる。	概ね腹式呼吸ができているが、息の量が少なくなった時に咽頭への力みが生じる発声をしている。	腹式呼吸を理論的に理解しているが、訓練不足により結果が出ていない。	腹式呼吸を理論的に理解できず、訓練方法の意図も理解できていない。	腹式呼吸やその訓練の重要性を理解せず、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標 B	初見の課題において、母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を的確に区別し、台詞として表現することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を自力で区別することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができるが、自力で区別することができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができず、区別していうことができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解しようとせず、授業内において出席意欲が感じられない。				
到達目標 C	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品について語るることができる。	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品のテーマを理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解しようとする意欲は見える。	戯曲を読解しようとする意欲がない。				
到達目標 D	自分の役割を理解し、自己都合を一切感じさせず他者の感情に訴えかける表現を行うことができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮しながら“役としての”コミュニケーションを図ることができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮して用いているが“役としての”コミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解できず、他者と目を合わせてコミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解しようとせず、他者とコミュニケーションを図ろうとしない。				
到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い				
【教科書】 レジュメ・資料は必要に応じて配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		企画制作演習 I			年度	2026
英語表記		Practice of Plan and Production I			学期	通年
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	導入インプロビゼーションを考える	イメージワード	1 コンセプト	描写の演技を学ぶ ビジネス化と表現者の危機をよぶ 高い意識でグループ貢献をする	2	
2	インプロを意識しながらペアのエチュード (1)	緊張を取る	1 アイデンティティ	リアリティを学ぶ 普通から抜け出す 個性を発揮する		
3	インプロを意識しながらペアのエチュード (2)	リアリズム演技の根幹	1 置き換え	日々の生活を充実させる 全てのを置き換える 台詞の本質に着眼する		
4	インプロを意識しながらグループエチュード (1)	五感を鍛える	1 感情の記憶	身体への刺激を感情とリンクさせる 押さえていた感情を放出させる 相手を安心させる		
5	インプロを意識しながらグループエチュード (2)	目的と障害と行動	1 センス・メモリー	刺激に敏感になる ワンポイントで感じる 全身に感覚を身に付ける		
6	セルフプロデュースについて考える	アクション(演技＝行動)を学ぶ	1 五感	見る聞く匂いを感じる 味を感じる 肌で触れて感じる		
7	インプロを意識しながら1人のエチュード (1)	声の表現を楽しむ	1 思考	インナー・オブジェクトを感じる		
8	インプロを意識しながら1人のエチュード (2)	表現と癖の違い	1 歩く、話す	目的を持つ 衣服の重さを感じる 状況によって感じる		
9	動画について考える	台本読解について	1 即興	空想ゲーム(ごっこ遊び)に身を任せる		
10	動画企画制作 (1)	ビート分析①	1 リアリティ	想像を超越する 真実を探す 真実を選び抜く		
11	動画企画制作 (2)	ビート分析②	1 エクササイズ	周囲の環境をイメージする 与えられた状況をイメージする 目的を明確にする		
12	動画企画制作 (3)	シーン稽古実践①	1 三つのステップ	タイミングを見計らう		
13	動画企画制作 (4)	シーン稽古実践②	1 イミディアシー	モノを探す		
14	動画発表・意見・討論	中間発表	1 エンダウメント	想像力を持つ		
15	全体のまとめ	総評	1 モノローグ	空想する		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他  
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった  
備考 等